

令和3年度練馬区立豊玉中学校 学校評価報告書

練馬区立豊玉中学校
校長 江川 誠志

1 自己評価結果

(1) 概要

生徒、保護者、地域関係者、教職員のアンケート調査、令和3年度学校経営計画の具体的方策をよりどころとした教育調査を基に、年度末に自己評価を行った。この結果をまとめると以下ようになった。

ア 今年度の成果

「4人組での豊中スタンダードの確立」や「防災や交通安全についての正しい知識」、「行事に真剣に取り組み達成感を得る」、「外部講師を招いた命の授業の実施」、「規範意識や基本的な生活習慣の確立」、「温かい雰囲気の中での安心した生活」、「ピア・サポートとリレーションづくり」等で成果が見られた。

イ 次年度への課題

「家庭学習の習慣を身に付けさせるための支援」や「講話を工夫し、人生観や生き方について考えを深めさせる」、「夢や志をもち、幸福な人生の創りてとなるような支援」、「課題解決を中心にした授業改善」等に課題がある。

ウ 次年度に向けた改善点

次年度から次の段階（研究の第2フェーズ）である「論理的思考力の育成」に移行する。3年間の研究をベースに、学力向上プロジェクトを学びのスキルの習得・活用期と位置付けて「学びの主体者」を育成する。また、年度当初に重点的にピア・サポートプログラムを確実に全校体制で実施する。さらに、指導の重点に「プレゼンテーションや表現する活動の充実」を位置付け、感動することで心の成長を促す機会を充実させる。

(2) 根拠となる資料

令和3年度 豊玉中学校の教育調査（アンケート）結果＜生徒・保護者・教職員＞
 指標 【とてもそう思う 5点】 ┌ (肯定的評価)
 【どちらかと言えばそう思う 4点】 └
 【どちらかと言えばそう思わない 2点】 ┌ (否定的評価)
 【そう思わない 1点】 └
 【わからない 0点】 (不明)

※ 最高値5.0、最低値1.0、到達目標は4.0、重要課題は3.5未満

評価項目	生徒	保護者	教職員
1 授業規律の徹底と、ピア・サポートを全校体制で行い、生徒のリレーションづくりを進める。	4.3	4.2	4.6
自己評価についての評価結果および主な意見			
学級の望ましい人間関係が作り上げられ、誰とでも協力して学ぶことができた。課題としては、ピア・サポートプログラムの開始時期が、学年によって異なった。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
ピア・サポートプログラムの成果が、最も期待される年度当初に、全校体制で確実に実施する。			

評価項目	生徒	保護者	教職員
2 学力向上プロジェクトの確立・検証期と位置付け、4人組を軸にした豊玉スタンダードを確立する。	4.6	4.3	4.8
自己評価についての評価結果および主な意見			
「4人組」チーム学習が、豊玉中学校のスタンダードとなり、対話を中心とする言語活動が充実した。「4人組」活動が目的になり、対話が行えていない場面も見られた。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
思考ツールを活用して考えを整理させ、対話の手法を指導し、言語活動を充実させる。			

評価項目	生徒	保護者	教職員
3 課題解決を中心とした授業改善を通して、自己表現力、プレゼンテーション能力の伸長を図る。	4.1	4.0	4.2
自己評価についての評価結果および主な意見			
課題解決型学習の成果を、チームで発表する経験を通して、多くの生徒の自己表現力が向上した。発表が苦手な生徒に活躍の場を与えることは十分にできなかった。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
自分の意見をまとめる時間を保障し、全ての生徒が自分の考えを発表できるようにする。			

評価項目	生徒	保護者	教職員
4 各教科で、家庭学習の習慣を身に付けさせるための働きかけや支援を行う。	3.5	3.2	2.6
自己評価についての評価結果および主な意見			
次に学ぶことを伝えた教科では、次の授業で全ての生徒が力を身に付け、発展的な学習に意欲的に参加した。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
強制的な宿題を出すことが、生徒の主体性を引き出すことの妨げになっている。全ての教科で、次の授業で学ぶことや何を準備してくればよいかを伝え、生徒の家庭学習に対する主体性を引き出す。			

評価項目	生徒	保護者	教職員
5 人に対する思いやりや礼儀、他者との違いを理解し、認め合いながら生きる生徒を育てる。	4.1	4.0	4.5
自己評価についての評価結果および主な意見			
多くの生徒が、人に対する思いやりや礼儀、他者との違いを理解し認め合いながら学校生活を送れている。しかし、教科書（読み物）教材の人物の心情に沿った展開だけでは、全ての生徒に道徳性を身に付けさせることができない。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
道徳授業で、教科書教材の人物の心情に沿った展開だけでなく、討論型やロールプレイングなど体験的な授業を工夫する。			

評価項目	生徒	保護者	教職員
6 夢や志をもち、困難を乗り越え、幸福な人生の創り手となっていけるように支援を行う。	3.8	3.9	4.4

自己評価についての評価結果および主な意見			
多くの生徒が、自分の長所を理解し、将来の夢に結び付けようと意識することができた。全ての生徒が、自分が身に付けた力に自信をもち、自己肯定感を育むことができるように、教育活動を工夫する。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
2学年で実施し、成果の見られた「志教育」を全学年実施に広げ、夢や志を立て、自己と向き合わせる取組を行う。			

評価項目	生徒	保護者	教職員
7 心の教育を活性化するために外部から講師を招き、実体験に基づいた「命の授業」を実施する。	4.6	4.3	4.6
自己評価についての評価結果および主な意見			
生徒は、戦後の過酷な抑留生活の実体験を聞くことで、人と人とのふれあいの大切さや、命の大切さを学ぶことができた。また、シベリア抑留中の過酷な労働環境の中で、日本人同士が生き残るために、互いを思いやっていたことに感銘を受けた生徒が多かった。事前学習として、資料や展示物を見学することができた。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
講演内容の理解を深めるために、今後も事前学習を充実させ、道徳授業地区公開講座に講師を招聘し、戦争等の実体験に基づいた「命の授業」を実施する。			

評価項目	生徒	保護者	教職員
8 規範意識や基本的な生活習慣を確立させる。 (正しい価値観や自立に向けた働きかけ)	4.3	4.2	4.8
自己評価についての評価結果および主な意見			
多くの生徒がルールを守り、基本的な生活習慣を身に付けている。また、学年が上がるにつれて、その割合が多くなっている。学校のルールが守れている3年生には、さらに社会のルールについて考えさせる。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
全ての教育活動を通して、社会生活の基本的な決まりや規範意識をもとに、適切に判断し行動する態度を身に付けさせる。			

評価項目	生徒	保護者	教職員
9 薬物、防犯、防災、交通安全についての正しい知識を身に付けさせる。	4.5	4.3	4.8
自己評価についての評価結果および主な意見			
薬物乱用教室や情報モラル教室を実施したり、安全指導や避難訓練を実施し、多くの生徒が、薬物、防犯、防災、交通安全について正しい知識を身に付けている。火災時を想定した避難訓練では、4分以内で校庭に集合して人員点呼までを行えた。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
今後も薬物、防犯、防災、交通安全について、生徒が正しい知識を身に付けられるように、安全指導を継続して行う。			

評価項目	生徒	保護者	教職員
10 インターネットやSNSについての正しい知識を身に付けさせる。	4.2	4.0	4.5
自己評価についての評価結果および主な意見			
多くの生徒がインターネットやSNSについての正しい知識を身に付け、タブレット型PCを適切に使用している。個人利用のスマートフォン等については、家庭と			

の協力体制を確立して管理していく必要がある。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
学級活動で情報モラルに関して確認したり、家庭ルールの見直しをしたりする機会を設け、生徒自身のインターネットやSNSの使用法を確認させる。			

評価項目	生徒	保護者	教職員
11 生活アンケートを毎月実施し、いじめの未然防止、早期発見、早期解消に努める。	4. 2	4. 1	4. 5
自己評価についての評価結果および主な意見			
学校生活や学習における悩み、家庭生活での悩み等を相談できる環境をつくれたことが、「安心して通える学校づくり」につながっている。生徒と教員が相談する機会が増えたことで、生徒と教員相互の信頼関係を築くことができた。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
生活アンケートを毎月継続して実施するとともに、アンケートを利用しなくても生徒が相談できるように、生徒と教員の信頼関係を築いていく。			

評価項目	生徒	保護者	教職員
12 地域の人材を活用しながら、多様な職業や価値観、社会情勢の変化を理解させる。	4. 0	4. 0	4. 5
自己評価についての評価結果および主な意見			
1 学年は、地域の職業人をゲストティーチャーとして招聘して「豊中ハローワーク」を実施した。将来社会人として求められる知識と能力が明確になり、中学生としての生活を見直す機会とすることができた。2 学年は、東京証券取引所と連携した起業家体験を行った。チームが開発したプレゼンテーションでは、「会社の魅力」、「貢献度」、「熱意」を意識しながら発表することができた。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
3 学年は、「将来就きたい職業」をテーマに、進路学習でその職業に就くまでをシミュレーションさせる。大学生をゲストティーチャーとして招聘し、大学までの道筋や、卒業後の就職先についての考えを聞く。			

評価項目	生徒	保護者	教職員
13 全校集会・朝礼・学年集会の講話を工夫し、人生観や生き方について考えを深めさせる。	3. 9	3. 9	4. 1
自己評価についての評価結果および主な意見			
教師の話聞いて感銘を受け、行動を起こしている生徒が見られた。学年集会での講話を、計画的に実施する。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
これからも生徒の心に残る講話となるように内容を工夫して、全校集会・朝礼・学年集会で伝えていく。			

評価項目	生徒	保護者	教職員
14 学校経営計画に基づき、温かい雰囲気の中で生徒が安心して生活できる学校をつくる。	4. 1	4. 2	4. 8
自己評価についての評価結果および主な意見			
ピア・サポートプログラムの活用で、学級のリレーションづくりが進み、温かい雰囲気をつくることができた。また、ピア・サポーターが、弱い立場の生徒を守ろうとすることにより、学校生活に不安を感じる生徒が減少した。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
ピア・サポートプログラムを全校体制で確実に実施する。弱い立場の生徒をつくら			

ないために、問題解決的な道徳授業や、ロールプレイングを活用した道徳授業を実践し道徳性を育む。

評価項目	生徒	保護者	教職員
15 小学校や地域との連携が行えないコロナ禍の中で、校内に目を向け学校のために活動する。	4.3	4.3	4.5
自己評価についての評価結果および主な意見			
コロナ禍の様々な制限がある中、生徒会役員を中心に、責任をもって委員会活動に取り組むことができた。また、校内で7月に実施した「練馬大根の種とりボランティア」に33名の生徒が参加した。10月30日（土）の豊玉南小学校60周年イベント「おひさまフェスティバル」に、お手伝いとして延べ60名の生徒が参加。さらに12月に、地域の福祉施設に「折り紙+メッセージカード」を贈った。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
生徒会役員が中心となって、各委員会や部活動部長会と協力して、挨拶運動や校内に目を向けた活動に取り組む。			

評価項目	生徒	保護者	教職員
16 生徒の健康上の課題や配慮事項を掌握し、情報の共有化と全教職員との共通理解を図る。	4.1	4.0	4.4
自己評価についての評価結果および主な意見			
コロナウイルス感染拡大の予防策として、日頃からの手洗いと消毒、換気などが行えており、多くの生徒の感染症への予防意識が高い。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
家でもできる運動などを伝えて取り組めるようにする。困ったことを相談しやすい関係を作れるよう、日常的に声かけを行う。個別に相談に対応する。			

評価項目	生徒	保護者	教職員
17 コロナ禍の中、限られた条件の中で、行事に真剣に取り組む達成感を得る。	4.4	4.4	4.8
自己評価についての評価結果および主な意見			
競技に意欲的に参加し、真剣に取り組むことができた。異学年の生徒の頑張る姿に、全校生徒が応援のエールを送ることができた。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
運動会のダンス練習を通して、異学年での教え合い学習を深め、さらに全校生徒と一緒に踊る楽しさや気持ちを、一つに合わせる達成感を味わわせる。			

2 学校関係者評価の結果

(1) 総括

- ① 成果… 3年間、全校体制で取り組んだ学力向上プロジェクトにより、自己肯定感が高まったこと。小学校の頃に比べて飛躍的に学力が向上したこと、また人間関係づくりが進み、いじめが0件だったことが高く評価された。
- ② 課題… 昨年同様、個に応じた指導の充実が課題に挙がった。授業で学習の躓きを感じている生徒に、各教科で強制的に宿題を出すのではなく、家庭学習の習慣を身に付けさせるための働きかけや支援を行うことが課題である。
- ③ 改善策… 単元の見通しをもたせ、計画的に学習できるようにするために、単元ごとにオリエンテーションを確実に行う。また、毎時間の授業で生徒が身に付ける力を明確にし、適切に評価することで学習意欲を引き出す。さらに、全ての教科で、次の授業で学ぶことや何を準備してくればよいかを伝え、生徒の家庭学習に対する主体性を引き出すようにする。

3 学校評価結果の公表等

- ・学校ホームページで、7月と12月の教育調査の結果を、10月と3月に公表
- ・保護者・地域に向けて、学校だより特別号で10月と3月に調査結果を公表
- ・3月3日に全校生徒対象に「学力向上プロジェクト・フィードバックの会」を実施
- ・3月23日の1・2学年保護者会で、教育調査の結果を説明する予定

4 次年度の学校改善に向けた校長の見解

(1) 課題と改善策

本校は、「家庭学習の習慣を身に付けさせるための支援」や「講話を工夫し、人生観や生き方について考えを深めさせる」、「夢や志をもち、幸福な人生の創りてとなるような支援」等に課題があります。これらすべての課題を解決し、生徒や保護者・地域の方々から信頼される学校にするために、「目標・夢・志の実現」に向けて試行錯誤するスキルを身に付けさせて、「学びの主体者」として成長させます。

(2) 「豊中プラン2022」の確実な実施

次の5つの重点プランを確実に実行することで、学校改善を確実に図っていきます。

① 学力向上プロジェクト論理的思考力

豊中スタンダード（豊玉中学校での学びの基本スタイル）の確立を目指した学力向上プロジェクトの3年目が終わり、次年度から次の段階（研究の第2フェーズ）である「論理的思考力の育成」に移行していく。3年間の研究をベースに、学力向上プロジェクトを学びのスキルの習得・活用期と位置付けて「学びの主体者」を育成する。また、課題を整理、分析、解決策を迅速にまとめさせる力を習得させるために、思考ツールの活用を中心とした授業改善を確立し、数値を基に検証を行う。

② ピア・サポートの確実な全校実施

研究の検証を行う中で、ピア・サポートプログラムを活用して学級のリレーションづくり（人間関係づくり）を行うことは、学力向上に欠かせない要素であり温かい雰囲気醸成しいじめの発生を激減させる結果となった。次年度は、年度当初に重点的にピア・サポートプログラムを確実に全校体制で実施し、全ての生徒が互いの違いを認めつつ、意欲的に学校生活を送れるようにする。

③ プレゼンテーション表現活動の充実

10月に実施した「運動会」での集団演技や、11月の「ダンス部・吹奏楽部校内発表会」での演奏や演技、12月の「校内ダンス発表会」での発表活動を通して、改めて学校行事の大切さと、人間的な成長を促すために不可欠な場であることを痛感した。次年度の指導の重点に「プレゼンテーションや表現する活動の充実」を位置付け、感動することで心の成長を促す機会を充実させる。

④ 地域ボランティア活動の充実

本校では、地域ボランティア活動が定着し、地域の方から大きな期待と高い評価を得ている。ボランティアへの参加を希望する生徒を対象とした年間登録制度「ボラバンク」や、地域や学校に貢献できる生徒「ボランティア・リーダー」の育成を行っている。コロナ禍の収束も未だに見通せない中で、生徒が主体的に活動できる場面をさらに開発しながら、非対面型の活動を充実させていく。

⑤ 体験に学ぶ「命の授業」の継続実施

過去から学ぶことを通して命の尊厳や重みを実感させるために、道徳授業地区公開講座に講師を招聘し、令和元年度から取り組み始めた「命の授業」を継続実施する。来年度は、戦時下の学童疎開の体験者を招き、実体験の話を通して「平和の尊さ」や「生き方」について考えを深めさせる。